

造形通信

2024. 2月
NO.67
ひいらぎこども園

あっという間に2月になりました。時間がたつのは早いものです。雪が降るかもしれないほどの寒さの日があったり、風の強い日があったりして、暖かい春の訪れはまだ先ですが、桜の木の枝を見ていると、小さなつぼみが膨らみ始め、準備が始まっているようです。花が開く日を楽しみに待ちたいです。

みんなの作品がいっぱい

今まで子どもたちが遊び続けてきた活動がいろいろな形になりました。園舎いっぱい広がる造形作品を見ていると、楽しんで活動している子どもたちの声が聞こえてきそうです。おうちの人に来てもらって、楽しそうに一緒に遊ぶ姿がとても印象的でした。創るおもしろさ、飾る工夫、観るおもしろさ、いっぱい作った作品展です。



移動水族館を見てから自分たちで作りはじめました。

毎日読んでもらっている大きなかぶの絵本。自分たちで作りました。



1枚の段ボールから始まったおうち作り。作りたいものがどんどん出てきます。



絵本から出てきたお花の種から、大きな花がさきました。



乳児組の子どもたちが作った作品が玄関で出迎えてくれます。

玄関に入ると長い線路が現れました。

自然と線路の上を歩く子どもたちです。



テーブルやいすを重ねた素敵な3段の展示だなのっている作品。

ブームになった色紙。いつの間にかお部屋に大きな花火があがりました。



線路の上に電車を走らせています。



床に張り巡らされた線路、お部屋につながる足型シート。言葉ではない視覚に訴えるものは、子どもたちの心に響きます。線路の上を落ちないように歩いてみたり、線路の上に電車を走らせたり、自然と足型をたどってお部屋には入ろうとしたりする行動が生まれたりします。面白いものです。小さなアートが子どもの心に響いています。

子どもの意欲に合わせて、画用紙がどんどんひらがっていきました。